

長野市公共施設個別施設計画 【市民プール編】

< 概要版 >

平成31年4月策定

長野市

ながのご縁を  信都・長野市

1 はじめに

2

公共施設の状況

- ・本市では、昭和40～50年代にかけて、急激な人口増加等に対応するため、多くの公共施設を整備
- ・さらに、平成の合併で多くの公共施設を引き継ぎ、本市の施設保有量は、全国的にも多い状況

公共施設の老朽化等

- ・現在、多くの公共施設が老朽化し、改修や更新の時期を迎える。
- ・膨大な費用が見込まれ、人口減少や少子高齢化など伴い、将来にわたり全ての施設を維持していくことは困難



市民プールの状況

- ・屋内、屋外を含めて12のプールを保有（他市と比較し数が多い）
- ・屋外プールは、レジャーの多様化や紫外線を嫌う傾向など、利用者が大幅に減少
今後も、人口減少により更に減少の見込み
- ・建設から40年以上経過するプールも多く、大規模な改修が見込まれる。
- ・夏の猛暑や監視員の人員不足など、屋外プールの継続的な維持が危ぶまれる状況



～ 安全で安心な市民プールに向けて ～

- ・本計画は、屋外市民プールについて、総合的に評価し、施設の統廃合を提案
- ・今後も持続可能な方法で施設の見直しを進め、市民が安全・安心に利用できる市民プールを維持できるよう努めます。

公共施設マネジメントの推進

本市では、将来にわたり真に必要な公共施設サービスを提供するための基本的な方針等を定めた長野市公共施設等総合管理計画（平成29年3月策定。以下「総合管理計画」）に基づき公共施設マネジメントを推進しています。

背景

- ・老朽化：高度経済成長期の急激な人口増加に伴い、多くの公共施設を整備したが、これらは建築から30年以上が経過し、老朽化が課題
- ・人口減少：本市の総人口は、平成12年をピークに減少していく見込み。今後、社会を担う世代が減少し、財政への影響が懸念される。
- ・財政状況：市税収入は、減少傾向にあり、今後も厳しくなることが予想される。今後の公共施設の適正な維持管理については、安全性を担保しながらサービスを提供し続けていけるかが課題

総合管理計画

総合管理計画では、施設総量縮減の施策（今後20年間で20%の延床面積の減）や施設の長寿命化等の施策を合わせて進めることにより、改修・更新費用の縮減を図るものとしています。

【総合管理計画 基本方針】

施設総量の縮減と適正配置の実現 < 目標20年で20%削減 >
計画的な保全による長寿命化の推進 < 新耐震・非木造 目標使用年数80年 >
効果的・効率的な管理運営と資産活用
全庁的な公共施設マネジメントの推進

本計画は、総合管理計画に基づき、市民プールの具体的な存廃を定めることとします。

総合管理計画に記された基本方針は次のとおりです。

屋内プール	通年の利用ができ、市民の健康増進に活用されており、利用者も増加傾向であることから、今後は、長寿命化を図る。
屋外プール	利用期間が短いことや施設数も多く、開設当時と比較し、大幅に利用者が減少していることから、 屋外プールの統廃合 を行う。

本計画では、上記の方針に基づき、屋外市民プールについて、地域バランスを考慮した上で、利用者の状況や、維持管理・更新等に係る費用など客観的な指標に基づき評価を行い、統廃合を行う施設を決定します。

なお、本計画は、インフラ長寿命化基本計画（平成25年11月インフラ老朽化対策に関する関係省庁連絡会議策定）に基づく個別施設計画です。

3 対象施設

(本編7～9P)

5

本計画の対象となる市民プールは次のとおりです。

(古い順)

施設名	建設年月	経過年数	水面面積(m ²)	更衣室等面積(m ²)	プール概要 ¹	形態	運営 ³
信州新町市民プール ²	S45.8	48	487	体育館内	25、小、ス	屋外	直
城山市民プール	S46.5	47	1,449	327	50、25、小幼	屋外	指
茶臼山市民プール	S48.7	45	927	179	50、幼	屋外	指
犀南市民プール	S49.10	44	863	195	50、幼	屋外	指
北部市民プール	S53.8	40	878	261	50、幼	屋外	指
芹田市民プール	S61.6	32	862	239	50、幼	屋外	指
鬼無里B & G市民プール	H3.5	27	385	1,083	25、幼	屋外	指
青垣市民プール	H7.3	23	1,233	450	25、小、スほか	屋外	指
安茂里市民プール	H7.7	23	855	280	50、幼	屋外	指

1 50/25 = 50/25mプール、小 = 子供用プール、幼 = 幼児用プール、ス = スライダー、ほか = その他施設

2 信州新町市民プールは、25mプールがS45.8、子どもプールがH3.4に建設

3 直 = 直営の施設 / 指 = 指定管理者制度を導入している施設

4 計画期間

(本編9P)

- ・平成31年度(2019年度)から平成40年度(2028年度)までの10年間
- ・定期的に計画の進捗状況等のフォローアップを実施し、5年程度を目安に更新(社会情勢や市民ニーズ等の変化を踏まえ、見直し時期が早まる場合もある)

5 施設の現状と課題

(本編10～13P)

6

現状

利用者が約20年前と比較し45%減少し、市民負担が大きくなっている。
(10ページ参照)減少の要因は、レジャーの多様化や少子化、紫外線への懸念等と考えられる。

利用者一人当たりの運営コストが、最も低いプール(青垣)で約400円/人、最も高いプール(鬼無里)で約6,000円/人と、大きな差が生じている。

(12ページ参照)

建設から40年以上経過しているプールが多く、今後10年間の改修・改築費用は、16億円以上と見込まれる。(13ページ参照)

課題

本市は、屋内プールを含め12のプールを保有し、中核市(48市)中、施設数で3位(10万人当たり)、水面面積で1位(千人当たり)と保有量が多い。
一方、財政力指数は中核市で35位と平均以下

利用者数は大きく減少している一方、供給(施設数)はそのままで、市民負担は増大している。今後も人口減少により、利用者数はさらに減少すると想定される。

屋外市民プールは、利用期間が夏期の約2ヶ月で、活用は限定的。一方で、建設から40年以上経過するプールが多く、全てを維持するには多額の経費が必要

全国的な人手不足や周辺自治体のプールとも期間が重なることから、監視員などの人材確保が難しい状況。また、監視員は、事故防止の責任も重いなど、敬遠される傾向にある。

6 施設の評価

(本編14～18P)

7

現状と課題を踏まえ屋外プールの統廃合に向けて、全てのプールを評価指標により評価し、総合的に判断します。

評価方法は、施設の利用者数などの客観的評価（定量的な評価）と、各施設が抱える個別事情等（定性的な評価）によります。

定量的な評価（利用度）

水面面積当たり利用者数

- ・単位水面面積当たりの利用者数を評価
- ・平成27～29年度の平均利用者数を、右表の基準で評価

利用者数	評価
20人以上	5
15人～20人未満	4
10人～15人未満	3
5人～10人未満	2
5人未満	1

1㎡当たりの利用者数が多いプールは評価が高くなっています。

施設名	利用者数 (人)	水面面積 (㎡)	1㎡当たり 利用人数	評価
青垣公園市民プール	29,019	1,233	24人	5
城山市民プール	13,845	1,449	10人	3
芹田市民プール	7,845	862	9人	2
安茂里市民プール	7,568	855	9人	2
北部市民プール	6,332	878	7人	2
茶臼山市民プール	4,955	927	5人	2
犀南市民プール	4,177	863	5人	2
信州新町市民プール	1,076	487	2人	1
鬼無里B&G海洋センター市民プール	946	385	2人	1

定量的な評価（利用度）

20年前と近年の減少率

- ・ 20年前（平成9～12年度）と近年（平成27～29年度）の平均利用者数の変化を、右表の基準で評価

減少率	評価
0%～20%未満	5
20%～40%未満	4
40%～60%未満	3
60%～80%未満	2
80%以上	1

利用者は、各プールで大幅に減少しています。減少率が最も低い青垣公園市民プールでも、24%の減となっています。

施設名	H7～9 平均（人）	H27～29 平均（人）	減少率 （%）	評価
青垣公園市民プール	38,416	29,019	24%	4
芹田市民プール	11,550	7,845	32%	4
茶臼山市民プール	8,829	4,955	44%	3
城山市民プール	25,771	13,845	46%	3
犀南市民プール	9,699	4,177	57%	3
安茂里市民プール	19,668	7,568	62%	2
北部市民プール	19,443	6,332	67%	2
鬼無里B&G海洋センター市民プール 1	3,493	946	73%	2
信州新町市民プール 2	-	1,076	-	2

- 1 鬼無里市民プールは、H10～H12の利用者数（営業期間が当時は3か月だったため現在の2か月に換算し算出）
- 2 信州新町市民プールは、過去のデータが不明なため、近年の利用者数が同様の鬼無里と同等と類推して評価

定量的な評価（維持管理等コスト）

施設運営コスト

- 平成27～29年度の管理運営にかかる、利用者一人当たりの平均コストを比較し、右表の基準で評価

1人当たりの管理運営費	評価
1,000円未満	5
1,000円～2,000円未満	4
2,000円～3,000円未満	3
3,000円～4,000円未満	2
4,000円以上	1

コストパフォーマンスに大きな差が出ています。信州新町、鬼無里市民プールは、一人当たりのコストが、5,000円以上となっています。

施設名	市負担額 (円)	利用者数 (人)	一人当たり コスト (円/人)	評価
青垣公園市民プール	13,030,653	29,019	449	5
城山市民プール	9,618,333	13,845	695	5
芹田市民プール	6,365,333	7,845	811	5
安茂里市民プール	6,365,333	7,568	841	5
北部市民プール	6,365,333	6,332	1,005	4
茶臼山市民プール	4,990,000	4,955	1,007	4
犀南市民プール	6,584,333	4,177	1,576	4
信州新町市民プール	6,316,195	1,076	5,870	1
鬼無里B&G海洋センター市民プール	6,312,000	946	6,672	1

6 施設の評価

(本編14～18P)

10

定量的な評価（維持管理等コスト）

今後の改修・改築コスト

- ・今後（平成31～50年度）の改築費用等を右表の基準で評価

更新・改修費用	評価
1億円未満	5
1億円以上～2億円未満	4
2億円以上～3億円未満	3
3億円以上～4億円未満	2
4億円以上	1

比較的建設年度が新しい安茂里、鬼無里、青垣は評価が高く、建設年度が古く面積が広い城山市民プールは低い評価です。

全てのプールを維持するには、16億円以上が必要です。

（単位：千円）

施設名	建設年度	H31～40	H41～50	計	評価
安茂里市民プール	H7.7	17,000	6,000	23,000	5
鬼無里B&G海洋センター市民プール	H3.5	13,000	3,000	16,000	5
青垣公園市民プール	H7.3	34,000	12,000	46,000	5
信州新町市民プール	S45.8	137,821		137,821	4
犀南市民プール	S49.10	244,229		244,229	3
北部市民プール	S53.8	248,474		248,474	3
茶臼山市民プール	S48.7	262,341		262,341	3
芹田市民プール	S61.6	243,946		243,946	3
城山市民プール	S46.5	410,067		410,067	1
計		1,610,878	21,000	1,631,878	

【H31～40】 維持改修のほか築50年以上経過するプールは全面改築を想定

【H41～50】 維持的改修を想定

6 施設の評価

(本編14～18P)

定量的な評価（まとめ）

定量的評価をまとめると次のとおりとなります。

青垣公園市民プールが最も高く、次に安茂里、芹田、城山等と続き、評価が低いプールは、信州新町、鬼無里となります。

No.	施設名	利用度		施設運営 コスト	改修・改築 費用	計
		水面面積 当たり人数	開設時と近年 の増減			
1	青垣	5	4	5	5	19
2	安茂里	2	2	5	5	14
3	芹田	2	4	5	3	14
4	城山	3	3	5	1	12
5	茶臼山	2	3	4	3	12
6	犀南	2	3	4	3	12
7	北部	2	2	4	3	11
8	鬼無里	1	2	1	5	9
9	信州新町	1	2	1	4	8



6 施設の評価

(本編14～18P)

12

定性的な評価

各プールの個別事情

施設名	個別事情の内容
城山	・公園緑地課で、城山公園の一体的な整備を検討している。
北部	・近隣に福祉施設があることから福祉団体の利用が比較的多い。
安茂里	
芹田	・隣接する衛生センターの建替えに伴う地元要望として建設されたプール。 ・平成30年2月、プール内に大きな亀裂が生じ、平成30年度以降の営業が難しい状態となっている。
犀南	・施設の一部が借地となっている（年間 527千円）。 ・住宅地内にあり、アクセスが悪く道路も狭い。
鬼無里	・施設の全部が借地となっている（年間 788千円）。 ・B & G財団の助成を受け建設した施設のため、財団と協議が必要 ・鬼無里小中学校等の授業で利用している。
青垣	
茶臼山	
信州新町	・唯一の直営プール。平成29・30年度は、スライダーが故障したため、料金を下げて営業（今後の復旧は未定）。 ・信州新町中学校の授業で利用している。

7 施設の統廃合の方針

(本編19~20P)

総量の見直し

- 中核市の施設状況や本市の財政力、また、プールの利用状況や今後の施設更新費用などを考慮し、施設数を削減します。

地域バランスを考慮

- 市民プールは広域的な施設であり、利用者のアクセスや利便性を考慮して、次のとおり3つのエリアに分けて検討します。
- その上で、3つのエリア内でバランスを図ることとし、現状は各エリアに3つある屋外プールを、将来的に各エリア1つとします。



【北部】

北部・城山・鬼無里市民プール、アクアウィング

【中部】

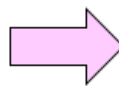
芹田・安茂里・信州新町市民プール、サンマリーンなごの

【南部】

犀南・茶臼山・青垣公園市民プール、南長野運動公園屋内プール

【現状】

	屋外	屋内
北 部	3	1
中 部	3	1
南 部	3	1



【将来像】

	屋外	屋内
北 部	1	1
中 部	1	1
南 部	1	1

凡例
● 屋外プール
■ 屋内プール

7 施設の統廃合の方針

(本編19～20P)

第1期統廃合：2019年度のプール営業をもって、以降は廃止

第2期統廃合：当面存続するが、段階的な統廃合に向けて時期等を検討

区域	施設名	評価	総合評価結果による対策	時期
北部	鬼無里	9	<ul style="list-style-type: none"> 市民プールとしては、統廃合の対象とするが、学校プールとしては存続する方向で教育委員会と協議する。 B & G財団と今後について協議する。 	第1期
	北部	11	<ul style="list-style-type: none"> 今後の城山公園の整備方針によって、統廃合について改めて検討し、その結果により、北部か城山のどちらか一方を存続 	第2期
	城山	12		第2期
中部	信州新町	8	<ul style="list-style-type: none"> 市民プールとしては、統廃合の対象とするが、学校プールとしては小中学校の統合の検討と併せて教育委員会と協議する。 	第1期
	芹田	14	<ul style="list-style-type: none"> プール内に大きな亀裂が生じ、プール営業が難しい状態で、安茂里と同等の評価だが、同プールを統廃合の対象とする。 衛生センター建替えに伴う地元要望で建設されたため、廃止後は地元と協議する（公園等を検討）。 	第1期
	安茂里	14	<ul style="list-style-type: none"> 利用者が多く施設も比較的新しいことから、施設の長寿命化を図りながら存続 	存続
南部	茶臼山	12	<ul style="list-style-type: none"> 利用者が少なく、統廃合の対象とする。 複合スポーツ施設内にあり、管理が容易に行えるため、廃止後は通年利用出来る屋外多目的スポーツ施設など機能向上を検討 	第1期
	犀南	12	<ul style="list-style-type: none"> 利用者が少なく、茶臼山市民プールと同等の評価で、統廃合の対象として検討するところだが、市街化調整区域のため後利用が難しく、茶臼山プール廃止後の利用状況を見て段階的に廃止を検討 	第2期
	青垣	19	<ul style="list-style-type: none"> 評価が高いことから、施設の長寿命化を図りながら存続 	存続

第 1 期統廃合実施後の費用と効果

- ・ 第 1 期統廃合実施後は 5 施設で、運営費が年間約 4,200 万円、改修改築費用が今後 10 年間で約 9 億 5 千万円を見込みます。
- ・ 統廃合後の効果としては、運営費が年間約 2,400 万円の減、改修改築費が今後 10 年間で約 6 億 6 千万円の削減となります。
- ・ 削減された費用の一部を施設の長寿命化や魅力向上に充てることで、サービスの向上や利用者増による維持管理コスト削減が期待できます。

(単位：千円)

項目	現 状	第 1 期統廃合後	効 果
施設数	9 施設	5 施設	4 施設
水面積	7,939m ²	5,278m ²	2,661m ²
運営費	65,947千円/年	41,964千円/年	23,983千円/年
改修改築費	約16億1千万円 /10年間	約9億5千万円 /10年間	約 6億6千万円 /10年間

屋内プール除く

第 1 期統廃合後も、屋内プールを含めた状況を中核市で比較すると、施設数は中核市 4 8 市中 3 位、水面積では 4 位と、まだ高い水準にある。

9 統廃合のスケジュール

(本編 21P)

16

存続施設

- 施設の長寿命化のための計画的保全や魅力向上を図りながら安全安心な施設として維持していきます。

第1期統廃合対象施設

- 第1期統廃合対象施設の「鬼無里、信州新町、芹田、茶臼山」は、2019年度は営業を行いますが（芹田は休止）、2020年度から廃止となります。

第2期統廃合対象施設

- 当面は存続しますが、段階的な統廃合に向けて時期等を検討します。

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度 以降
存続施設	営業			
第1期統廃合対象施設	営業		廃止	
第2期統廃合対象施設	営業		営業及び状況を見て統廃合検討	

参考：令和3年度の状況

本計画を基に、第1期統廃合対象施設は、令和元年度に4施設廃止し、第2期統廃合対象施設の内、城山市民プールは、本年度に廃止しました。

区域	施設名	現 状
北部	鬼無里	令和元年度廃止
	北 部	存続
	城 山	令和3年度廃止
中部	信州新町	令和元年度廃止
	芹 田	令和元年度廃止
	安茂里	存続
南部	茶臼山	令和元年度廃止
	犀 南	計画見直し時期（令和5年度）に廃止を検討
	青 垣	存続